

日本旧石器学会

ニュースレター 第54号

NEWS LETTER No. 54

JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION



日本旧石器学会第21回大会の開催（報告）

2023年度日本旧石器学会第21回大会が、2023年6月24日（土）・25日（日）に東京都立埋蔵文化財調査センターで開催された。以下に概要を報告する。

総会

6月24日13:00から総会が行われた。開催にあたり佐藤宏之会長から挨拶があり、本年度が日本旧石器学会の20周年にあたること、また本学会の今後の発展について言及があった。その後、事務局からの推薦により伊藤 健会員が議長に選出された。議事は各委員会から2022年度活動及び2023年度活動計画の報告が行われた。質問・要望事項について審議した後、採決により承認を得た。各委員会の報告・審議事項は本誌に掲載しているとおりである。続いて2023年度旧石器学会賞の受賞者の発表と授賞式が行われた。学会賞は沢田 敦会員、論文賞は山崎真治会員にそれぞれ贈呈された。

一般研究発表

総会に続いて一般研究発表が行われた。尾田識好ほか、加藤真二、橋詰 潤ほか、傍島健太、青木要祐ほか、金 彦中ほかの各氏（連名発表は筆頭発表者名のみ記載）から、総計6本の発表が行われ、質疑応答が行われた。

ポスターセッション

ポスターセッションは6月25日に行われ、コアタイムが同日13:00から14:00に設けられた。須賀永帰ほか、岩瀬 彬ほか、堤 隆、下岡順直ほか、光石鳴巳ほか、王 唅ほか、北村成世ほか、高木暢厚の各氏（連名発表は筆頭発表者名のみ記載）から、総計8本の発表が行われた。

シンポジウム『更新世における海とヒトのかかわり』

シンポジウムは6月25日に開催された。最初に研究企画委員会の高倉 純委員から趣旨説明があり、続いて5人による発表が行われた。

海部陽介氏は「西太平洋地域の証拠からさぐる更新世人類の海洋進出」と題して、古代型人類の渡海の可能性について触れ、現生人類による渡海について氏の研究成果をもとに論じた。

池谷信之氏は「更新世における黒潮の流路と神津島産黒曜石の獲得」と題して、旧石器時代における神津島と本土との往復について論じた。この渡海の様相に迫るためには、当時、黒潮流路をどのように克服したのかを明らかにしていくことが研究課題であると指摘した。

澤田純明氏は「後期更新世における人類の動物資源利用：ホアビニアンと日本列島」と題して発表した。氏が行っているホアビン文化の調査成果を報告し、当該域においては精緻な発掘調査方法の採用が重要であることを指摘した。また日本列島における旧石器時代の水産資源利用を論じる際の注意点を喚起した。

藤田祐樹氏は「海洋を渡った旧石器人：琉球列島」と題して、琉球列島における動物資源利用についてサキタリ洞遺跡などの研究成果を報告し、さらにシカ類の絶滅とヒトの影響について言及した。

小野林太郎氏は「ウォーレシアへ進出した旧石器集団」と題して、ウォーレシアにおけるサピエンスの拡散について論じた。当該域における移住ルート、想定される渡海の方法について紹介し、石器及び動植物資源の利用戦略について論じた。

パネルディスカッションでは、主に渡海技術及び生業・資源利用について討論が行われた。最後に各論者が会場の質問に答えつつ、このテーマにおける今後の展望が語られた。

（ニュースレター委員 赤井文人）

2022 年度委員会報告

2023年6月24日(土)に日本旧石器学会総会が開催されました。2022年度の活動について各委員会から報告が行われ、審議の後に承認されました。内容につきましては以下のとおりです。

総務委員会

2022年度の総務委員会の活動は以下の通りである。

1. 会員情報の管理

事務局にて入会届の受付、入会審査後の通知発送を行なった。2022年度新入会員1名、退会者は5名で、2023年4月1日現在での会員数は、会費長期滞納により権利を停止している会員を除き224名である。

2. 総会・研究発表・シンポジウム開催に関する連絡調整及び資料作成

- ・2022年度総会・研究発表・シンポジウムは名古屋大学にて対面開催した。
- ・2023年度総会・研究発表・シンポジウムは東京都埋蔵文化財センターでの対面開催を目指すことを決定した。

3. 会務に関する連絡調整、各委員会間の連絡調整

4. 会誌(旧石器研究第19号)及びニュースレター(51~53号)、各種学会連絡文書の発送

- ・会誌発送：2023年6月上旬
- ・ニュースレター：2022年8月第51号、2022年12月第52号、2023年5月第53号
- ・学会刊行物の在庫圧迫問題をうけ、会誌及びニュースレターの印刷部数を縮減し、過去の号からPDFデジタル公開を進める対応で決定した。
- ・日本考古学協会での図書交換会中止をうけ、シンポジウム予稿集及び会誌は全て郵送とした。

・このほか、適宜必要な事務連絡文書の通知・発送を行なった。

5. 研究グループ支援制度に関する事務

- ・「郡家今城遺跡の再整理」(研究代表者 鈴木忠司)は2022年度を持って活動終了となった。
- ・中断されていた「旧石器基礎研究・次世代育成研究グループ」(研究代表者 堤 隆)は、2023年度より3ヵ年計画で活動再開したい旨の申請があり役員会で了承された。

6. 日本旧石器学会賞

- ・2022年度総会后に2021年度学会賞・論文賞、2022年度若手奨励賞の授与式を行った。
- ・2022年度の学会賞、論文賞選考に係る事務を

行った。

7. メーリングリストに関すること

- ・メーリングリストの更なる有効活用と登録率の向上を図る必要があり、2021年度に役員会での議論と了承のもと、メーリングリストへの登録を原則、義務化した。その結果、4月1日現在の登録人数は124名となった。

8. 共催・資料提供等

- ・2022年10月に同志社大学にて開催のシンポジウム「ベーリンジア：ユーラシアからアメリカへの人類の拡散」(主催：文部科学省科学研究費助成事業新学術領域研究(研究領域提案型)2019年度~2023年度「出ユーラシアの統合的人类史学：文明創出メカニズムの解明」)の後援、2023年7月に遠軽町にて開催予定の国際黒曜石会議(主催：白滝ジオパーク推進協議会)の後援にかかる事務を行なった。

会計委員会

1. 2022年度の活動実績について

(1) 役員会、総会・研究発表・シンポジウム時(※現金による取扱い)

- ・会費・学会刊行物頒布代金の徴収(総務委員会と協同)及び収入の学会口座への預入
- ・各委員会立替金、仮払金等の現金支出
- ・日本旧石器学会賞(若手奨励賞)副賞の現金支出(6/5 名古屋大学)

(2) 通年(※口座による取扱い)

- ・会費納入状況管理、会費納入・住所変更等の総務委員会への報告、刊行物頒布等収入の管理
- ・シンポジウム登壇者、普及講演会講師及び会議・普及講演会・データベースワークショップに出席した役員の交通費補助額の算定・支払(2022年度はシンポジウム登壇者のみ)
- ・刊行物(会誌18号、ニュースレター50・51・52号)印刷・発送費支払
- ・HP管理・メーリングリスト構築運用委託費の支払

・APA日本大会経費積立金の口座管理(積立金入金・支払等)

- ・役員引継ぎに伴う経費及び研究グループ運営経費(2022年度はなし)の支出
- ・その他、学会出納口座の管理

2. 2022年度決算(案)について(表1・2参照)

(1) 一般会計

収入：予算額を69,880円下回った。会費納入については、滞納分の納入が進んだことにより予算額

表1 日本旧石器学会 2022 年度一般会計決算(案) 単位:円

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会費収入				
会費収入	1,374,000	1,456,000	82,000	延べ 242 人・年(※4,000 円超過) 【内訳】18 年度 2 人, 19 年度 1 人, 20 年度 8 人, 21 年度 33 人, 22 年度 186 人, 23 年度~12 人
その他の収入				
会誌頒布代金	201,000	152,800	△ 48,200	最新刊(18 号)11 冊, バックナンバー30 冊
シンポジウム予稿集頒布代金	234,000	92,100	△ 141,900	2022 年度は 70 冊, バックナンバー5 冊
その他収入	0	38,220	38,220	会誌カラー印刷(著者負担), 会誌販売送料
繰越収支差額	2,097,380	2,097,380	0	
収入 計	3,906,380	3,836,500	△ 69,880	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	108,000	88,300	△ 19,700	オンライン会議システム使用料(1 件), 総会・シンポジウム運営補助
旅費交通費	109,000	49,000	△ 60,000	シンポジウム発表者交通費(3 件)
通信運搬費	93,000	83,648	△ 9,352	役員引継ぎ資料送付・会誌送料等
消耗品費	3,000	4,879	1,879	領収証・名札ラベル・マーカー・テープ等
印刷製本費	1,209,000	1,223,562	14,562	会誌, シンポ予稿集・NL3 件(送料含む)
諸謝金	0	0	0	
委託費	66,000	66,000	0	HP 管理・メーリングリスト構築運用
次回 APA 日本大会経費積立	150,000	150,000	0	
研究グループ運営経費	0	0	0	
日本旧石器学会賞関連経費	68,000	64,760	△ 3,240	賞状製作, 若手奨励賞(副賞あり)
雑費	28,000	31,236	3,236	会費返金(1 件), 郵便振替・振込手数料
予備費	2,072,380	2,075,115	2,735	
支出 計	3,906,380	3,836,500	△ 69,880	

※単年度収支

費 目	予算額	決算額	増 減
繰越金を除く収入	1,809,000	1,739,120	△ 69,880
予備費を除く支出	1,834,000	1,761,385	△ 72,615
収支差額	△ 25,000	△ 22,265	

表2 日本旧石器学会 2022 年度特別会計(APA 日本大会開催経費積立) 決算(案) 単位:円

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
積立金収入	150,000	150,000	0	次回 APA 日本大会経費積立金
その他の収入	0	11	11	利子
前期繰越収支差額	930,000	930,000	0	
収入 計(①)	1,080,000	1,080,011	11	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
APA 日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
支出 計(②)	0	0	0	
次期繰越金(①-②)	1,080,000	1,080,011	0	

を上回ったが、会誌等の頒布が伸びず、予算額を下回ることとなった。

支出：4つの費目で支出増となったが大幅な増はなく、他の費目が予算内に収まったため、予算を72,615円下回った（予備費を除く）。

【印刷製本費支出増の原因】会誌のカラー印刷のため、印刷費が増加した（著者負担のため収入と相殺）。

総括：22,265円の赤字が発生し、2022年度への繰越金は2,075,115円となった。

(2) 特別会計

所定の150,000円を積み立て、1,080,011円（利子11円）を2023年度に繰り越した。

(3) 会計監査

2023年5月27日に会計監査委員から監査を受け、適正に処理されていることを確認して頂いた。

会誌委員会

1. 会誌「旧石器研究」第19号の編集

ニュースレターなどにおいて、投稿募集を積極的に行った。投稿原稿の確認や査読、編集の作業を委員会で分担して行い、下記の論考を掲載した。掲載論考の内訳は、論文6本、資料報告1本、大会報告1本である。また、今号から印刷部数を320部（引き続き残部状況を確認して、可能なら速やかに300部に減らす。）にすることとなった。

- ・論文：中沢祐一「伝熱工学的アプローチによる炉をめぐる車座モデルの評価」、須藤隆司「唐沢ハイゴロゴロ遺跡としぐね遺跡の黒曜石原産地推定と削片系両面調整石器群形成システム」、青木要祐・佐々木繁喜・傍島健太「本州における白滝型細石刃石器群の石材獲得・消費戦略」、長井謙治「初期石刃技法とその日本列島への伝播」、中村由克「実体顕微鏡観察に基づく山形県金谷原遺跡と横道遺跡の珪質頁岩の特徴」、三好元樹「環境変動と人類活動の対比と環境安定期における人類活動の変化」
- ・資料報告：菅 紀浩・光石鳴巳「香川県井島遺跡採集の湧別技法関連資料」
- ・大会報告：平澤 悠「日本旧石器学会 第20回 研究発表・シンポジウム「更新世末の西南日本における環境変動と人類活動」

2. 執筆要項改定

会誌の現状にあわせ、執筆要項の一部を改定した。改定か所は、「4.原稿の構成」（資料報告に要旨を付けるよう記載を変更）、「10. 註・文献の引用」（未刊行論文引用にあたっては、著者校締め

切り時点で掲載が決定していることを条件として記載）である。また、引用文献リストの記載項目、論考基礎データのWeb公開について、引き続き検討することとなった。

ニュースレター委員会

2022年度はニュースレター第51号、第52号、第53号の編集・発行を行った。主な内容は以下のとおり。

【第51号】2022年8月28日刊行(12頁): 2022年度第20回大会の開催（報告）、2021年度委員会報告、2022年度活動計画、2021年度日本旧石器学会賞受賞者の発表、2022年度学会賞の推薦募集、2022年度旧石器学会役員会、日本旧石器学会研究グループの募集、関連学会情報、お知らせ

【第52号】2022年12月1日刊行(8頁): TFC Thematic Program 2022国際シンポジウム・ワークショップを終えて、2021年度日本旧石器学会賞受賞者報告、出版情報、第21回大会一般研究発表・ポスター発表の募集、2022年度学会賞の推薦について、お知らせ

【第53号】2023年5月8日(8頁): 一番古くて、新しい国宝、北海道白滝遺跡群出土品、2023年度日本旧石器学会第21回総会・研究発表・シンポジウムについて、研究グループ活動報告、出版情報・関連学会情報、APA11の開催について、お知らせ

渉外委員会

1. アジア旧石器協会（APA）に関して

第11回APA韓国大会（2023年8月18～22日開催予定）の1st Circular（2022年7月着信）、2nd Circular（2023年1月着信）、2nd Circular 改訂版（2023年2月着信）、3rd Circular（2023年5月着信）について、学会メーリングリストおよびホームページを通じて会員に周知した。

2. デレヴィヤンコ傘寿記念シンポジウムに関して

2023年1月11～13日にロシア ノヴォシヴィルスクのロシア科学アカデミー考古民族学研究所で行われる「デレヴィヤンコ傘寿記念シンポジウム」の1st Circularを学会メーリングリストを通じて会員に周知した。

研究企画委員会

第20回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催

日程：2022年6月4日（土）～5日（日）
会場：名古屋大学東山キャンパス 野依記念学術
交流館
プログラム：
シンポジウム「更新世末の西南日本における環境
変動と人類活動」発表5本（趣旨説明除く）
一般研究発表：口頭6本（1本20分）、ポスター
セッション8本

データベース委員会

1. 更新・改訂作業

（1）基本方針

- ・「日本列島の旧石器時代遺跡」データベースを
“最新のデータにもとづき、より使いやすく、維持
管理の容易なデータベースに!”
- ・2010年版以降の新データと欠落データの追加・
補足、収録情報の確認、とくに位置情報の高精度
化を進める。
- ・文献書誌情報の外部データベースとの紐づけ（奈
文研「遺跡総覧」ほか）。
- ・更新作業の進捗状況の確認

（2）「旧石器遺跡マッピングパーティー」更新作 業ハンズオン・ワークショップ（WS）

- ・今年度の開催なし（コロナ禍に加え作業協力可
能な会員の不足など）

2. 更新・改訂版の公開準備

- ・学会ホームページ上に更新・改訂版の公開ページ
を設置し、更新・改訂が終了した地域のデータを
公開（2021年度）。
- ・DB項目の英文化作業を終了。Github上での公開
を検討中。

入会資格審査委員会

2022年4月1日から2023年3月31日の
2021年度期間中に以下の3名から入会申し込みが
あり、その資格審査を厳正に行い、会長に結果を報
告した。

- ・加藤大智（カトウ ダイチ、2023年3月25日入
会申込、4月14日資格審査結果報告）
- ・高山正久（タカヤマ マサヒサ、2023年3月25
日入会申込、4月14日資格審査結果報告）
- ・井村舜也（イムラ シュンヤ、2023年3月25日
入会申込、5月2日資格審査結果報告）

広報委員会

日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PR、HPの
更新、関連学会情報や魅力あるコンテンツの作成を

柱に、活動を実施・計画している。

1. ホームページにおいて、旧石器学会、講演・共
催事業・関連学会等の情報を掲載した。

（1）ホームページ更新

- ・2022年7月11日 「2022年度役員名簿」の掲
載、事務局住所の変更
- ・2022年7月26日 「会則」の修正
- ・2022年8月30日 「ベリンジア：ユーラシアか
らアメリカへの人類拡散」の掲載
- ・2022年9月20日 「第11回アジア旧石器協会韓国
大会（APA）」1st Circularの掲載
- ・2022年9月28日 「サキタリ洞発掘調査案内」の
掲載
- ・2022年10月13日 「ニュースレター51号」の掲載
- ・2022年12月26日 「ニュースレター52号」の掲載
- ・2023年2月6日 「第11回アジア旧石器協会韓国
大会（APA）」2nd Circularの掲載
- ・2023年2月13日 「2023年度日本旧石器学会 第
21回研究発表（一般口頭発表）」募集の掲載
- ・2023年3月9日 「委員会名簿」の修正
- ・2023年3月14日 「委員会名簿」の追加

（2）その他

- ・11月1日「東北日本の旧石器文化を語る会 第
36回北海道大会」の案内をメーリングリストにて
告知

- ・11月18日「第4回国際黒曜石会議（IOC）遠軽大
会2023」の案内をメーリングリストにて告知

2. HPについて今日的なデザインのあり方、導線の
設定を他学会の状況も調査してリニューアルを検
討した。

- ・2022年7月 HPリニューアルに関する検討開始
- ・2022年9月 アルケーリサーチよりリニューアル
に関する予算について確認、会計委員会と調整
- ・2022年11月 メールによる臨時役員会で審議（デ
ザイン・構成）、リニューアルには賛成。デザイ
ン等に検討の余地あり。
- ・～2023年3月 デザイン再構成、アルケーリサー
チに実現可能であることを確認、以降リニューア
ルに向けて準備中。

2023年度活動計画

2023年6月24日（土）日本旧石器学会総会が開
催されました。2023年度の活動計画案について各
委員会から報告が行われ、審議の後に承認されまし
た。内容につきましては以下の通りです。

総務委員会

以下の項目のほか、経常的な会務に取り組む。

1. 総会・研究発表・シンポジウムの準備・連絡調整
 - ・2024年度の総会・研究発表・シンポジウムは2024年6月に地方大会として中国地方で対面開催を調整中。
2. 日本旧石器学会賞の選考
 - ・2023年8月 ニュースレター第54号で「学会賞推薦」の告知
 - ・2024年3月頃 学会賞選考委員会を開催し、推薦をもとに受賞者候補を決定
 - ・2024年5月 役員会で承認・決定
 - ・2024年6月 日本旧石器学会総会にて授賞式
3. 次期役員選挙2024年度
 - ・2023年5月21日 役員会にて選挙管理委員会候補の審議
 - ・2023年6月24日 総会にて選挙管理委員会の承認
 - ・2023年12月 ニュースレターで選挙告示
 - ・2024年2月 立候補・候補者推薦締切
 - ・2024年2月 選挙公報および投票用紙の送付
 - ・2024年3月 選挙管理委員会による開票
4. 研究グループ
 - 研究グループに運営費交付金を交付し、活動を支援する。また、2024年度の研究グループ公募をニュースレター第54号にて行う。

会計委員会

1. 一般会計
 - 前年度執行額・予算額をベースに予算編成及び執行を行う。ただし、オンライン開催から対面方式による開催へと変更する行事については、コロナ禍前の執行額をベースに予算編成及び執行を行うこととする。
 - ◎役員会、総会・研究発表・シンポジウム、普及講演会、ワークショップ等の開催に係る経費については、オンラインと対面を有効的に使い分け、機動的かつ適正な執行に努める。
 - ・会員に対する刊行物の配付経費等、その他の経費についても適正な執行に努める。
 - ・予備費の適正な活用により、活動の充実を図るとともに、経営安定にも配慮する。
 - (例) ホームページリニューアルや過去刊行物のホームページ掲載用PDF作成等
 - ・赤字額が増えた理由
 - HPリニューアルの費用については総額264,000円と高額なため3ヶ年の分割で計上している。

2. 特別会計

所定の150,000円を積み立て、1,230,000円を2024年度に繰り越す（11円は利子による端数）。

ニュースレター委員会

2023年度はニュースレター第54号、第55号、第56号の編集・発行を行う。掲載を予定している主な内容は以下のとおり。

【第54号】2023年8月刊行予定: 2023年度 第21回大会の開催（報告）、2022年度委員会報告、2023年度活動計画、2023年度日本旧石器学会役員会、2023年度日本旧石器学会賞受賞者の発表、2024年度学会賞の推薦募集、研究グループの募集、『旧石器研究』投稿募集の案内、関連学会・出版情報、お知らせ

【第55号】2023年12月刊行予定: 寄稿記事、2023年度日本旧石器学会賞受賞者報告、役員選挙公報、2024年度 第22回大会・研究発表・ポスターセッション発表の募集、普及講演会の案内、関連学会・出版情報、お知らせ

【第56号】2024年4月刊行予定: 寄稿記事、2024年度 第22回大会・研究発表・シンポジウムの案内、普及講演会報告、関連学会・出版情報、お知らせ

渉外委員会

1. アジア旧石器協会（APA）に関して
 - ・2023年第11回APA韓国大会は、韓国 全羅南道順天市にて対面方式で開催される予定である。
 - ・3rd Circularまでの情報は既に周知しているが、追加情報が通知された場合には、速やかに会員へ情報を共有する。
2. 海外でのシンポジウム等の情報提供
 - ・新型コロナに対する渡航制限緩和が進み、多くの国際学会ならびにシンポジウムが対面開催に移行しつつある。本学会に関連する国際学会やシンポジウムの（オンラインを含む）開催情報については情報提供したい。

研究企画委員会

第21回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催

日程：2023年6月24日（土）～25日（日）

会場：東京都立埋蔵文化財調査センター

プログラム：

シンポジウム「更新世における海とヒトのかかわり」発表5本（趣旨説明除く）

表3 日本旧石器学会 2023年度一般会計予算(案) 単位:円 ※下線が2022年度との変更点

収入				
	2023年度 予算(案)	【参考】2022年度決 算(案)	【参考】2022年 度予算	摘要
会費収入				
会費収入	1,380,000	1,456,000	1,374,000	会員数230人×6,000円
その他の収入				
会誌頒布代金	201,000	152,800	201,000	
シンポジウム予稿集頒布代金	234,000	92,100	234,000	
その他収入	0	38,220	0	
前期繰越収支差額	2,075,115	2,097,380	2,097,380	
収入計	3,890,115	3,836,500	3,906,380	
支出				
会議費・会場設営費	86,000	88,300	108,000	オンライン会議システム使用料, 総会・シンポジウム 会場設営等・昼食代, DB ワークショップ会場等使用料
旅費交通費	83,000	49,000	109,000	シンポジウム発表者・DB ワークショップ開催委員の交 通費補助
通信運搬費	92,000	83,648	93,000	役員選挙関係費・会誌送料
消耗品費	3,000	4,879	3,000	事務用品等
印刷製本費	1,280,000	1,223,562	1,209,000	会誌印刷, シンポジウム予稿集印刷, NL印刷・発送・ <u>HP掲載用PDF作成費</u>
諸謝金	0	0	0	
委託費	154,000	66,000	66,000	HP管理・メーリングリスト構築運用・ <u>HPリニューアル 費(3ヶ年分割)</u>
次回APA日本大会経費積立	150,000	150,000	150,000	
研究グループ運営経費	15,000	0	0	<u>1件</u>
日本旧石器学会賞関連経費	37,000	64,760	68,000	賞状製作(3賞), 副賞,
雑費	29,000	31,236	28,000	郵便振替・銀行振込手数料等
予備費	1,961,115	2,075,115	2,072,380	
支出計	3,890,115	3,836,500	3,906,380	

(備考)年度間の繰越金を除く単年度収支

費目	2023年度 予算(案)	【参考】2022年度決 算(案)	【参考】2022年 度予算
前期繰越額を除く収入	1,815,000	1,739,120	1,809,000
予備費を除く支出	1,929,000	1,761,385	1,834,000
収支差額	△ 114,000	△ 22,265	△ 25,000

表4 日本旧石器学会 2023年度特別会計(APA日本大会開催経費積立) 予算(案) 単位:円

収入				
費目	2023年度 予算(案)	【参考】2022年度決 算(案)	【参考】2022年 度予算	摘要
積立金収入	150,000	150,000	150,000	次回APA日本大会経費積立金
その他の収入	0	11	0	利子
前期繰越収支差額	1,080,011	930,000	930,000	
収入計(①)	1,230,011	1,080,011	1,080,000	
支出				
APA日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
支出計(②)	0	0	0	
次期繰越金(①-②)	1,230,011	1,080,011	1,080,000	

一般研究発表：口頭6本（1本20分），ポスターセッション8本

データベース委員会

改訂・更新作業の継続

1. 改訂・更新作業の継続

- ・更新作業WSをオンライン開催し、協力者を確保し作業方法を周知する。開催地域の候補として山形県、茨城県、愛媛県など。
- ・研究上価値のある付加情報の整備とより効果的なDB連携について検討する。

2. 改訂・更新版の公開

- ・作業が完了した地域から、都道府県単位での公開を予定。
- ・英文化データベース（2010年版、改訂版の2種）の公開を予定。
- ・研究活用事例の発信

3. 課題

- ・各地域でWSを開催し、かつ開催後の更新作業を進めるマンパワーが不足している。
- ・広く協力者を得ることとともに、DB委員を中心に安定して作業を進められる体制づくりが必要である。また、将来的にはGithub等を活用した「会員が細かく（数遺跡の追加・修正から）アップデートできる」仕組みを考える必要がある。

広報委員会

日本旧石器学会や旧石器時代の周知PRのために、普及講演会の開催、HPの更新や魅力あるコンテンツの作成を柱に、以下のとおり活動を行う。

1. 普及講演会を開催し、学会や旧石器時代の周知・PRに努める。オンラインでの開催を予定。
2. 旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコンテンツを追加する。掲載遺跡が少ない中・四国、近畿、九州を中心に10遺跡前後を構想している。現在依頼中。
3. HPをリニューアルし、アクセス数の増加を図る。3年を目安に順序立てて行う。引き続き総務委員会とも連携して協力する。
4. その他 旧石器時代関連の周知に関する共催・後援・協力事業を実施する。

2022年度日本旧石器学会賞受賞者

2023年3月8日（水）に日本旧石器学会賞選考委員会を開催し、学会賞候補者1名、論文賞候補者1名を選考しました。これを受け、5月21日（日）に

役員会において選考結果を報告し承認されました。授与式は6月24日に行いました。論文賞受賞者については大会欠席のため、賞状は郵送としました。また若手奨励賞については、2023年6月25日に学会賞選考委員会を開催して候補者1名を選考し、同日授与式を行いました。

・2022年度学会賞受賞者：

沢田 敦（新潟県文化課）

・2022年度論文賞受賞者：

山崎真治（沖縄県立博物館・美術館）

・2023年度若手奨励賞：

傍島健太（富山県教育委員会）

なお、「選考理由」及び「受賞者の言葉」はニュースレター第55号にて報告します。

2023年度学会賞の推薦について

「日本旧石器学会賞規定」に則り、2023年度の学会賞受賞候補の推薦を募ります。旧石器研究の発展に貢献し優れた業績をあげた会員を推薦してください。

1. 推薦内容：学会賞受賞候補

2. 推薦期間：2023年10月1日(日)～2024年2月11日(日)（必着）

3. 推薦者の資格：日本旧石器学会員

4. 推薦方法：学会賞受賞候補の氏名、学会賞受賞候補の推薦理由、推薦者の氏名・連絡先をご記入の上、郵送もしくは電子メールにより下記の事務局あてに送付して下さい。

5. 注意事項

・推薦は自薦・他薦を問いませんが、お一人につき一名を限度とします。

・学会賞受賞候補は、日本旧石器学会会員に限りません。推薦にあたって、学会賞受賞候補ご本人の承諾を得る必要はありません。

・推薦の書式は自由です。

・推薦理由は概ね100字から300字にまとめてください。

6. 応募先・照会先：日本旧石器学会事務局

（担当：森先一貴・長崎潤一・鹿又喜隆）

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部 長崎潤一研究室気付

(jimu@palaeolithic.jp)

2023年度日本旧石器学会役員会

会長：佐藤宏之

副会長：大竹憲昭

総務委員会：*森先一貴，鹿又喜隆，長崎潤一，
渡辺丈彦
会計委員会：*越知睦和，大場正善，小野章太郎
会誌委員会：*沢田 敦，上峯篤史，中村雄紀，
門脇誠二 三好元樹
ニュースレター委員会：*赤井文人，仲田大人，
山田和史
渉外委員会：*出穂雅実，平澤 悠，佐野勝宏
研究企画委員会：*高倉 純，高屋敷飛鳥，
青木要祐，尾田識好，亀田直美，
藤田祐樹，岩瀬 彬，洪 惠媛
データベース委員会：*熊谷亮介，沖野 実，
野口 淳，間直一郎，小原俊行，
堀 恭介，光石鳴巳
入会審査委員会：*沢田 敦，大竹憲昭
広報委員会：*沖野 実，神田和彦，夏木大吾
日本旧石器学会賞選考委員：*渡辺丈彦，
佐藤宏之，大竹憲昭，高倉 純，森先一貴
選挙管理委員会：*諏訪問順，下岡順直，大谷 薫
*は委員長，__は委嘱委員
アジア旧石器協会：佐藤宏之（副会長），
出穂雅実，平澤 悠（執行委員）

日本旧石器学会研究グループの募集

日本旧石器学会では、旧石器考古学およびこれに関連する研究課題について国内・国外の情報を交換し研究することを目的として、研究グループを設置しています。その「日本旧石器学会研究グループ規定」には自由に研究を行うことができる上、運営費を補助することも盛り込まれております。

つきましては2024年度の日本旧石器学会研究グループを募集します。研究グループの発足を希望する会員は、グループ名、代表者名、連絡先、研究目的、活動予定期間、参加者数、運営費交付希望の有無などを記入して本学会事務局に応募してください。募集期間は2024年3月31日（日）まで。応募・問い合わせ先は、日本旧石器学会事務局へ電子メールまたは郵送をお願いします

第40回中・四国旧石器文化談話会開催のご案内

1. 日 時
2023（令和5）年12月2日（土）14：00～17:20
12月3日（日）9：30～15：00
2. 会 場
岡山理科大学岡山キャンパス（岡山市北区理大町1-1）

3. テーマ
中・四国地方における後期旧石器時代前半期の地域課題
4. 日 程
【第1日目（12月2日）】
 - ・開会
 - ・記念講演「列島と中・四国の旧石器研究40年」
稲田孝司
 - ・趣旨説明
 - ・基調講演「古本州島の台形様石器と石刃尖頭器」
森先一貴
 - ・基調報告1「中・四国地方における後期旧石器時代前半期の研究課題」
三好元樹
 - ・基調報告2「中国地方山陰の様相と山間地域」
今岡友佳・稲田陽介【第2日目（12月3日）】
 - ・基調報告3「中国地方瀬戸内の様相と山間地域」
洪 惠媛
 - ・基調報告4「四国地方の様相」
沖野 実・氏家敏之
 - ・基調報告5「近畿地方の様相」
面 将道
 - ・基調報告6「九州地方の様相」
松本 茂・沖野 誠
 - ・ディスカッション
 - ・総括
藤野次史
 - ・閉会
5. 備 考
時間・演題等は6月時点の仮のものです。また、参加費・参加申込方法については追って周知します。
次のアドレスに連絡いただいた方には、正式決定後の開催要項を電子メールでお送りします。
chuushipalaeolith@yahoo.co.jp

お知らせ

メーリングリストの運用について

日本旧石器学会ではメーリングリストの運用を行っています。これは学会からの連絡手段として利用するとともに、情報交換の場として活用していくために設けたものです。みなさまへの円滑な情報共有のため、学会員のメーリングリストへの登録は、原則として義務化しております。

まだメーリングリストへの登録のお済みでない方は、携帯電話のメールアドレスでも構いませんので、事務局のメールアドレス（jimu@palaeolithic.jp）までお知らせください。

『旧石器研究』投稿募集の案内

旧石器学会会誌『旧石器研究』第20号（2024年5月発行予定）への投稿を募集しています。投稿をご希望の方は、以下の要領で会誌委員会宛（下記連絡先）にお申込みください。皆さまからの積極的なご投稿をお待ちしております。

以下、掲載原稿の種類および原稿締め切りの目安を記載しました。詳細な投稿規定と執筆要項は、会誌19号133～138頁および学会ホームページをご覧ください。

■掲載原稿の内容

原稿の内容は、原則として旧石器時代、または第四紀更新世に関するもので、体裁が「執筆要項」に合致するものです。

- (1) 言語：日本語または英語
- (2) 原稿の種類

論文：著者自身による未発表の研究成果をまとめたもの

総説：ある分野の研究成果を総覧し、総合的にまとめたもの

研究ノート：試論、予察、予備的な論考

資料報告：研究資料の紹介とその学術的な意義の報告

翻訳：国外の優れた研究の紹介

書評：単行本（または論文）の内容の紹介および批評

■投稿の事前連絡

投稿を予定されている方は、下記の内容を9月未までに編集委員会にE-mail（下記の申込アドレス）でご連絡ください。それ以降のご連絡でも投稿できますが、次号の投稿予定の把握のため、ご協力をお願いいたします。

- ①原稿の種類別（論文・総説・研究ノート・資料報告・翻訳・書評より選択）
- ②執筆予定者氏名（連名の場合は責任著者を明記）
- ③原稿の表題（仮題でも可）
- ④連絡先（責任著者の郵便番号、住所、電話番号、E-mailアドレス）

■原稿締め切り

原稿は随時受け付けておりますが、第20号に間に合うには下記の日付までに提出くださるようお願いいたします。投稿後に査読があります。

2023年11月末日 論文・総説・研究ノート・資料報告の原稿締め切り

2023年12月末日 翻訳・書評の原稿締め切り

■申込・問い合わせ先：jpra.ec6@gmail.com（日本旧石器学会会誌編集委員会）

原稿をデータでご提出の場合は、このアドレスにメールでお送りください。CD等で提出される場合は、送付先をこのアドレスに問い合わせください。

（会誌委員会）

会費納入・住所変更手続きのお願い

日本旧石器学会は、皆様の会費によって運営されていますので、会費は原則前納制としております。

ニュースレター同封の払込取扱票を用いて、今年度分会費の納入をお願いします。振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号00180-8-408055です。全国の郵便局で簡単に手続きいただけます。会費は6,000円です。

また、会費滞納は本会運営に大きな支障を招く原因になりますので、前号同封の会費納入状況表をご確認のうえ、2023年度以前の会費を未納の方は、未納分もあわせて納入をお願いいたします。

転居をされた方は、必ず住所変更の手続きをお願いいたします。郵便局に転居届を出されていても、本会では郵便局以外の配送会社を利用していますので転送していただけません。会費納入の際に払込取扱票に新住所を記載いただくか、または事務局までメール等でご連絡ください。

日本旧石器学会入会申込み手続きについて

日本旧石器学会入会申込みにつきましては、入会申込書を日本旧石器学会ホームページからダウンロード（<http://palaeolithic.jp/join.htm>）し、必要事項を記載の上、日本旧石器学会事務局へ郵送してください。入会資格審査にあたっては論文等著作物の提出を求める場合があります。ご協力ください。

日本旧石器学会ニュースレター 第54号

2023年8月9日発行

編集: 日本旧石器学会ニュースレター委員会

赤井文人・仲田大人・山田和史

発行: 日本旧石器学会

事務局: 〒162-8644

東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部 長崎潤一研究室気付

E-mail jimu@palaeolithic.jp

HP <http://palaeolithic.jp/index.htm>